

独立行政法人 国際協力機構
Japan International Cooperation Agency



異文化を通してあなたは何を 「JICA 青年招聘事業」

JICA(ジャイカ)では、開発途上国の国造りを担う人材を育成するために、日本にハード・ソフトの技術移転を目的とした研修(年間約8,000人)以外に、将来の国造りの担い手となる青年を専門分野別に年間約1,700人を招いています。青年たちは、約3週間日本に滞在し、それぞれの専門分野の講義や見学を通じて、日本の現状について学び、日本および参加国が共通に抱えている課題などを意見交換したり、ホームステイ受け入れ家族はじめ地域社会の人々との幅広い交流を通じて、相互理解を深め、信頼関係と友情を築くことを目的としています。この青年招聘事業は、1984年に旧アセアン諸国を対象に開始され、内外の評価も高く、順次対象国を広げ、2005年度は124ヶ国が対象となっています。



「中央アジアマスメディア」の平和公園訪問



「中国地域振興コース」のウエルカムパーティー

中国5県では2005年度、10グループを受け入れる計画です。すでに、これまでに3グループを岡山県(中国から教育)、山口県(アセアン諸国から社会福祉)、広島県(タイから教育)で受け入れました。3週間の最も標準的なプログラムは、東京に2週間滞在し、1週間で地方プログラムとして、中国5県の都市に滞在するものです。地方プログラムの圧巻は、青年にとって、また、受け入れ団体にとって、日本家庭におけるホームステイにあるとあって過言ではありません。ホームステイ先は、ベテラン家族から初めてという家族までさまざまですが、JICA中国は受け入れ団体の皆様に、新規の受け手入れ先の開拓をご配慮いただくようお願いしております。

それは、ホームステイの期間が2泊3日であっても、受け入れる家族にとって異文化を体験することの意義が高いことを毎回開催される歓迎会の場で強く実感し、少しでも多くの家庭に参加を促したいからです。宗教の違い、食事の違いなどから受け入れる前は不安を感じるものが一般的ですが、受け入れた後は、「実の息子(娘)をもったようだ」、「受け入れたことにより日本の伝統文化を見直す機会となった」、「家族の結束が強まった」など、参加する青年だけでなく、日本の地域社会の異文化交流・体験に間違いなく足跡を残すと思っています。

この場を借りまして、中国5県の受け入れを団体の皆様やホームステイで受け入れていただいたご家族に心から感謝を申し上げますとともに、受け入れを躊躇されているご家族には、ぜひ一歩を踏み出すことをお勧めしたいと思います。

JICA中国国際センター所長 熊倉 晃

青年招へい事業2004年度地域別・分野別受入実績

	教育・教員	経済	行政	地域振興	社会福祉	農業	環境保全	保健・医療	その他	計
アジア	383	45	159	190	127	65	131	65	86	1,251
太平洋	15	20					18	33		86
中南米	27				13					40
中東	58			35						93
アフリカ	90							45		135
計	573	65	159	225	140	65	149	143	86	1,605

注)1984年から2004年までの受入累計は、49カ国 28,192名。

特集! —「青年招へい事業」—

「青年招へい」ってなんじゃろ?

JICA では、開発途上国の将来を担う青年たちを招き、日本の技術を伝え、日本との友情が築かれることを目的とした「青年招へい」事業を行っています。

青年たちは、日本での1ヶ月の滞在の間、自分たちが自国で従事していること(例えば教員、行政、マスメディア等)について、講義を受けたり視察・見学などを通じて学びます。また、日本で同じような仕事に従事している青年たちとの語り合いなどを通じ、交流を深めます。その後の「地方プログラム」と呼ばれる約1週間は、地域ならではの伝統行事や市民活動に参加したり、ホームステイなどによって、青年たちにとって日本の文化や生活にたっぷりと触れることのできる期間となっています。

そこで... 地域の参加と協力を求めます!

「青年招へい」事業は、青年たちを受け入れる地域の皆様によって行われると言えます。毎年約1,600人の青年が日本を訪れますが、日程のうちの約1週間の「地方プログラム」は、日本の文化に触れる、日本を理解するという意味では一番内容の濃い期間となっています。「地方プログラム」の中で青年たちは、日本の地方都市に滞在し、日本の家庭でのホームステイ、伝統行事に参加するなどのイベントを通じ、地域の人々との交流を深めます。これは、各県の青年交流団体・国際交流団体、地域のボランティアの協力によって実施されています。また、「地方プログラム」は、青年たちのみならず参加する日本人たちにとっても、国際協力・交流を自ら体験する機会、あるいは異文化理解や地域コミュニティづくりを行う場となっています。今年度地方プログラムの実施予定は、以下のとおりです。ご興味を持たれた団体がいらっしゃいましたら、来年度の受入を是非検討してみてください。詳細は JICA 中国までお問い合わせください。

ところで... 応募の流れは?

受入可能性調査

(青年を受け入れてみたいという団体に対し、調査を実施します。)
応募時期については JICA 中国までご確認ください。

受入資格審査

(青年を受け入れるにあたり、適切が審査させていただきます。)

受入団体選定結果通知

平成17年度 青年招へい事業 地方プログラム

国名	分野	地方プログラム期間	実施協力団体	県名
中国	教育	2005. 5.31 2005. 6. 7	(財)岡山青年館	岡山県
アセアン混成	社会福祉(障害者福祉行政)	2005. 6. 7 2005. 6.14	世界青年徳山友の会	山口県
タイ	教育(職業訓練)	2005. 6.14 2005. 6.21	学校法人広島YMCA学園	広島県
アフリカ(英語)	保健医療(公衆衛生)	2005. 9.13 2005. 9.20	津山と世界を結ぶ会	岡山県
中国	公募2(地域振興2)	2005.11.21 2005.11.28	(財)三次国際交流協会	広島県
中南米(西語)	教員(理数科教員)	2005.11.22 2005.11.29	しょうばろ国際交流協会	広島県
アフガニスタン	教育	2006. 1.29 2006. 2. 5	(財)しまね国際センター	島根県
ネパール	教育(教員訓練)	2006. 1.31 2006. 2. 7	(財)防長青年館	山口県
モルディブ	教育(初中等)	2006. 1.31 2006. 2. 7	国際ネットワークしまね	島根県
フィリピン	環境保全	2006. 2.14 2006. 2.21	宇部市宇部環境国際協力協会	山口県

受入団体の「世界青年徳山の会」代表茅原正春さんからのメッセージ

民間団体としての先ず一歩は、組織のネーミングであった。いろいろ考えた末「世界青年徳山友の会」となり、規約も出来上がった。しかし、さて肝心の外国からの青年訪問団がいつか来なくなり始めた。原因は、不景気。外国人が来なければ、この組織は無用なもの。そこで、JICA 青年招へい事業を知り、研修と交流の事業内容に魅力を感じ「21世紀のための友情計画」へチャレンジ。1994年から受入を開始した。

現在会員数56名(女性54名・男性2名)の小さな会である。高校生から壮年まで年齢制限なし、韓国・ニカラグワ・アメリカ・ロシアなど外国出身の方も含まれている友の会、「元気で、やる気ある人」が会員資格。

1994年度から始めた JICA 青年招へい事業を振り返ると、太平洋諸国公務員、パキスタン農業関係公務員、中国産業基盤整備、アフリカ仏語圏経済開発公務員、モンゴル勤労青年、太平洋混成教員、インド教育(理数科教員)、フィリピン地域振興、太平洋混成環境保全、フィリピン地域振興、アセアン混成社会福祉(身障者福祉行政)と12年間延べ81国・地域、286名の受入を実施した。

この事業の魅力は、なんとと言っても開発途上国へ微力でもあるが協力できる喜び。それぞれの国の将来を担う青年たちとの出会いと交流、そしてその国がどのように繁栄して行くかを共に考え、共に行動し地域の皆様(研修先とホストファミリー)の協力のもと、一丸となって受入実施ができることである。

これからも青年招へい事業の続く限り応募し協力します。「ガンバレ招へい青年・かんばれ JICA」。

ホストファミリーの弘中香苗さんから

ホームステイの3泊4日の内、6月12日に ASEAN 混成・社会福祉の分野で来日していた青年と七夕祭りを開きました。地元の小中学生、保護者に国際交流の機会と、JICA について知ってもらおうと企画をしました。会長の紹介で借ることが出来た中国電力キッチンルームで、私の家に宿泊したマレーシアの青年の歓迎会も含めて開催しました。小中学生に、外国に興味を持ってもらい、日本語でも国際交流が出来ると言うことを知ってもらいたく、今回の七夕祭りを開催しました。大成功でした。小学1年生から中学1年生まで片言の英語や、日本語だけで、マレーシアの青年と交流していました。マレーシアの青年の方も知っている日本語をフルに使って子供達と交流をして、1日中楽しんでいました。マレーシアの青年は、マレーシアの挨拶、ゲームを紹介しました。日本の子供達は、七夕祭り、習字、松健サンパを披露し、一緒に遊んでいました。最後のお別れ

には、ほとんどの子供達が照れながら、「マレーシアへ、いつか行きたいです」と言っていました。この言葉を聞いた時には、子供達が外国に興味を持って、マレーシアの青年とも打ち解けられたと感じ、とても嬉しかったです。



あなたの街のJICA国際協力推進員

JICA国際協力推進員とは?

私たちは、JICAと地域の連携強化を図るために、JICAデスクとして各都道府県国際化協会へ配置され、地域の特色を活かした国際協力に取り組んでいます。地方自治体、NGO、教育関係、そして地域の人々が、JICAと一緒に国際協力を進めるためのパイプ役です。

「JICAって、どんなことをしてるの?」「青年海外協力隊に参加したい!」「開発途上国について、知りたい!」「開発教育ってなに?」などなど、皆さんの疑問・質問にお答えします。

国際協力に興味のある人、情報収集をしている人、実際にチャレンジしたい人、すでにがんばっている人、お気軽に私たちに声をかけてください!

島根県

(財)しまね国際センター

TEL:0852-31-5056

FAX:0852-31-5055

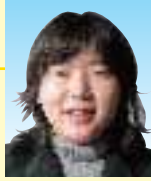
配置先住所:〒690-0826

島根県松江市学園南1-2-1

くびきメッセ2F

E-mail:jicadpd-desk-shimaneken@jica.go.jp

URL: <http://www.sic-info.org/>



長富 邦恵

青年海外協力隊OG
派遣国:バングラデシュ
職種:家畜飼育

鳥取県

(財)鳥取県国際交流財団

TEL:0857-31-5951

FAX:0857-31-5952

配置先住所:〒680-0947

鳥取県鳥取市湖山町西4-110-5

鳥取空港国際会館1F

E-mail:jicadpd-desk-tottoriken@jica.go.jp

URL: <http://www.torisakyu.or.jp/ja/index.html>



花岡 潤

青年海外協力隊OB
派遣国:パプア・
ニューギニア
職種:村落開発普及員

山口県

(財)山口国際交流協会

TEL:083-925-7353

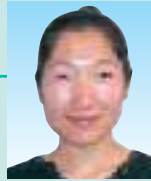
FAX:083-920-4144

配置先住所:〒753-0811

山口県山口市吉敷3185-1

E-mail:jicadpd-desk-yamaguchiken@jica.go.jp

URL: <http://www.yiea.or.jp/>



鈴木 博子

青年海外協力隊OG
派遣国:セネガル
職種:野菜栽培

岡山県

(財)岡山県国際交流協会

TEL:086-256-2917

FAX:086-256-2226

配置先住所:〒700-0026

岡山市奉選町2-2-1

E-mail:jicadpd-desk-okayamaken@jica.go.jp

URL: <http://www.opief.or.jp/>



藤本 裕美

青年海外協力隊OG
派遣国:セネガル
職種:家政

広島市

(財)広島平和文化センター

TEL:082-242-8879

FAX:082-242-7452

配置先住所:〒730-0811

広島市中区中島町1-5

E-mail:jicadesk@pcf.city.hiroshima.jp

URL: <http://www.pcf.city.hiroshima.jp/ircd/index.cgi>



磯村 祐子

日系社会青年
ボランティアOG
派遣国:ドミニカ共和国
職種:日系日本語
学校教師

広島県

(財)ひろしま国際センター

TEL:082-541-3777

FAX:082-243-2001

配置先住所:〒730-0037

広島県広島市中区中町8-18

広島クリスタルプラザ6F

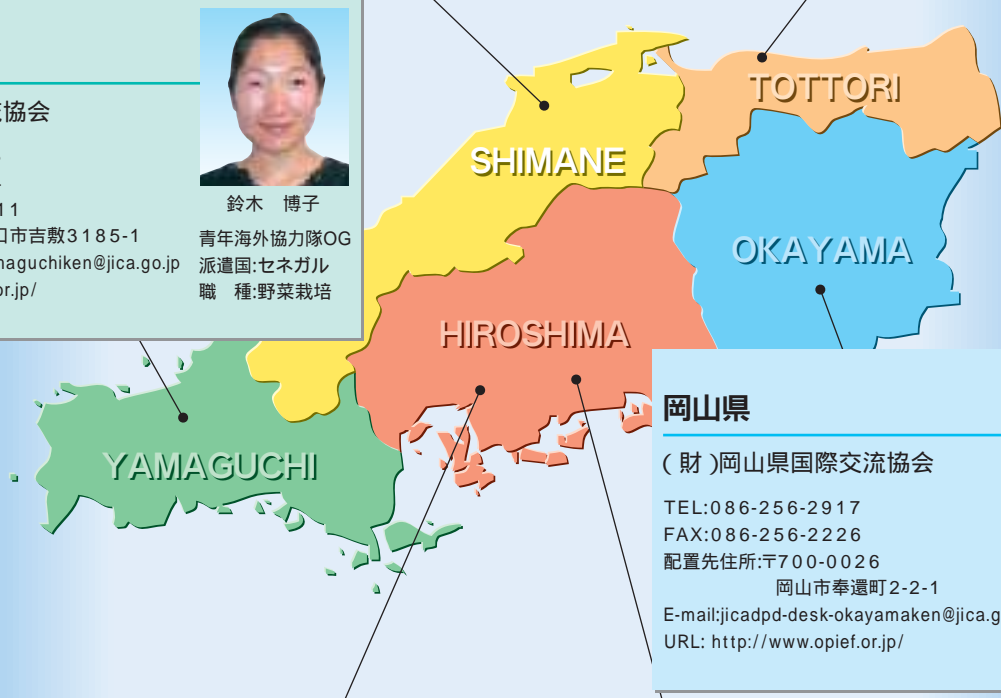
E-mail:hic06@hiroshima-ic.or.jp

URL: <http://hiint.hiroshima-ic.or.jp/hic/>



白築 健

日系社会青年
ボランティアOB
派遣国:ボリビア
職種:日系日本語
学校教師



各県 国際協力推進員の活動

私たちは、JICAと地域の連携強化を図るために、JICAデスクとして各都道府県国際化協会へ配置され、地域の特色を活かした国際協力に取り組んでいます。

島根県 「災害ボランティア・パネル展」の開催

5月17日～25日にかけて、島根大学、松江市カラコロ広場、島根県立大学、浜田市役所で、島根県学生災害ボランティアネットワークの皆さんと共に、災害ボランティアパネル展を開催しました。このパネル展では、ネットワークに参加している島根県内の学生達が、新潟震災被災地で引越しや雪かきの手伝いをしている場面や、スマトラ沖地震で被災したタイの託児所で子どもと交流した様子など計20枚、スマトラ沖地震・インド洋津波災害で派遣されたJICA国際緊急援助隊の活動紹介、JICAボランティアの現地での様子など計42枚の写真パネルを展示しました。パネル展を見に来られた県民の皆さんの中には、もっと市民の交流の場となる公民館等に展示してほしいとの意見や、ボランティア活動の写真を通じて仕事の大変さや重要性が感じられたとしみじみ語られる方もおられました。このパネル展を通して、県内で活躍されているボランティアの

皆さんやJICAボランティアの方を、少しでも身近に感じて頂けたら嬉しく思います。また、パネル展開催中に、松江市民グループが実施するスリランカ復興支援プロジェクトへの募金活動も行い、皆様のご協力を頂き、本当にありがとうございました。このパネル展で集めた資金は、県内35校から寄せられた体育用品166箱をスリランカへ送る資金の一部として充てられます。

これから県民の皆さんと共に、世界の人々と明日を考え、行動していただけるような機会を増やして行けるように、日々励んで行きたいと思っております。国際協力や開発途上国、開発教育に興味のある皆さんのご意見やご相談を、お聞かせ下さい。お待ちしております。



浜田市役所にて開催したパネル展

鳥取県 「国際協力出前講座」どんどんやっています!

5月19日は国際交流活動をしている鳥取大学のサークル(IFA)で、そして翌20日には難民支援団体ピースバードで、国際協力出前講座をおこないました。また30日には倉吉西中学校で、さらに6月13日には河北中学校でも、出前講座を実施しました。これらの出前講座を通じて、みなさんに、海外のこと、JICAのことを知っていただき、国際協力について考えていくきっかけになれば良いと思います。

県立農業大学校では、青年海外協力隊特別説明会を開催しました。農業の知識と技術の両方を持ち合わせた農業大学の学生たちに、実際に海外での農業に携わった経験のある青年海外協力隊OBが体験談をお話しました。

「パネル展」をやっています!

JICA中国と難民支援団体ピースバードとの連携事業である青少年「平和セミナー」も、既に始動しています。5月31日から6月14日まで、県民文化会館にて難民支援活動に関するパネル展を開催しました。これを機会に、より多くの方々に、難民問題についての関心を持っていただけるようになることが目標です。



出前講座(河北中学校)

岡山県 「インターナショナルサロン第1回」開催(6/18)

「ブラジルで活躍する日系人たち」と題して、JICA日系研修員の村中さんと日系社会青年ボランティアOGの森原さんを講師に、ブラジル日系社会の様子や日系社会でのボランティア活動、日系人と日本人の違いなどについて、ブラジル料理を食べながら少人数でざっくばらんに話し合いました。次回は、9/17開催の予定です。

「スキルアップ勉強会」開催(5/7)

JICAボランティアなどを講師として派遣する「JICA国際協力出前講座」をより充実させるため、講師となるJICAボランティアが、何をどのように

伝えるべきかについて、自主的に勉強会を開きました。次回は、7/2の開催です。

「帰国報告セミナー」を開催します(9/3)

青年海外協力隊などのJICAボランティアOV(オールドボランティア)が、活動を見て・聞いて・体験してきた事を紹介します。楽しみながら知ってもらえる内容を、企画中です。



インターナショナルサロン

広島県 広島インターナショナル・スクール・フェスティバルで初ブース出展!

5月21日(土)広島在住アメリカ人からの依頼で、広島インターナショナル・スクール・フェスティバルでのブース出展に協力しました。JICA中国とHIC(ひろしま国際センター)の存在を知ってもらいました。その後、ボランティア事業に関心を持っている方からの問い合わせが、殺到しました。来年も是非出展します!

カンボジア・スタディーツアー報告書完成!

JICA中国とHICとの共催で、2月27日から8日間実施されたカンボジア・スタディーツアー。参加者27人の執筆による報告書が出来上がりました。観光では味わえない、現場を見て感じた生の声が集まった報告書です。時期は未定ですが、今年度も実施致しますので、あの時の感動を皆さんも是非体験して下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

広島県2代目国際協力推進員着任!

(田中)初代の推進員として約3年間、右も左も分からないまま、あっという間に退任の時期を迎えることとなりました。仕事を通じて得た皆さんとの出会いは、何よりの財産です! 今後は、JICA青年海外協力隊の調整員として、ドミニカ共和国に赴任することとなりました。長い間お世話になりました。

(白築)初代推進員の田中順子が5月未で退任することになり、わたし白築にバトンが渡されました。田中が3年間かけて築き上げてきた人的ネットワークを大切にしながら、より地域に密着した国際協力を模索していきます。よろしくお願い致します。



インターナショナル・スクール祭ブース出展

広島県 「市姉妹都市交流の日」イベント続々開催!

広島市は、6つの海外姉妹都市・友好都市をもっています。市民のみなさんに、これらの都市に親んでもらおうと、毎年それぞれの姉妹・友好都市の日には、様々なイベントを行っています。お隣の国、韓国の大邱広域市と姉妹都市提携を結んだ5月2日には「大邱の日」記念イベントが、ドイツのハノーバー市と姉妹提携を結んだ5月29日には「ハノーバーの日」記念イベントが、それぞれ広島市留学生会館で開かれました。

「大邱の日」記念イベントでは、韓国民族舞踊「扇の舞」や韓国の打楽器「チャンゴ」の披露に加え、本場韓国家庭料理の試食が行われ、会場を訪れた人々は韓国の留学生との交流を楽しみました。また、「ハノーバーの日」記念イベントでは、上田流茶道によるお茶席あり、ドイツ人マイスターによる

お菓子細工のアートパフォーマンスあり、本格ドイツクラシックコンサートあり、と盛り沢山のイベントに、会場には多くの市民が訪れ、楽しいひと時を過ごされて

いました。今後、7月10日には「モンテリオールの日」記念イベントが、9月11日には「ボルコグラードの日」記念イベントが、広島市留学生会館で開催される予定です。

(財)広島平和文化センターは、今後も広く市民の方々が「国際協力・交流」について考え・触れ・行動する、きっかけの場を設けて参ります。



韓国民族舞踊「扇の舞」

山口県 大学生のための国際理解教育講座 第1回(報告)

山口県では、平成14年度から先生や学生、一般市民の方々を対象に、「国際理解教育講座」(JICA中国と(財)山口県国際交流協会が主催)を開催してきました。昨年の講座に参加した大学生の中から「大学生のための講座もやりたい!」という声があがったため、今年度、「大学生のための国際理解教育講座」を3回シリーズで開催することになりました。その第1回目の講座を5月29日(日)山口大学で講師に高見早苗さん(青年海外協力隊OV、「山口ケニアを知る会」代表)をお招きして開催しました。参加者からは、「知る」ということから始まる新しい気づきに興奮しました。」「いろいろ

な人と出会って、いろいろな考え方や価値観があることを共有できてよかった。

これからもいろいろな人たちと出会っていけたら嬉しい!」との声がかげられました。異文化の発見、コミュニケーションのおもしろさ、「知る」ことの大切さが、体験を通じて感じてもらえる講座となりました。



技術研修の窓

コースと実施機関(1) JICA中国では、世界各国から行政官や技術者を招き、研修を行っています。今回は、南東欧諸国を対象とする「サポーターイングインダストリー(裾野産業)育成」コース(期間: 6月7日~7月10日)に協力いただいている県立広島大学を紹介します。

まず、南東欧地域のサポーターイングインダストリーとは...

南東欧諸国では、社会主義体制崩壊後の市場経済化の中で、裾野産業の育成が進められています。このコースでは、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、クロアチア、モルドバ、ルーマニアの5カ国から行政官を招き、日本の中小企業概念や関連制度、中央や地方行政機関(広島県)の産業振興政策、広島県の各企業の具体的な取り組みの実際を学んでいます。

県立広島大学...

今年4月に3つの大学が統合されて新たに開学した県立広島大学は、広島市・庄原市・三原市にキャンパスを持っています。教育や研究とともに、地域貢献活動にも積極的に取り組み、新たに地域連携センターを開設しました。

県立広島大学地域連携センター

野原健一 センター長から...

コース2年目にあたり、生命環境学部や経営情報学部の教員が、本コース講師陣に加わり、より充実した研修を提供できるものと思っています。研修員の方々も、大変熱心に研修を受けられ、日本から学び取るという意欲があり、今回も実りある成果ができることを期待しています。



広げよう! 市民参加の輪

・第1回国際理解教育研修会の開催

5月28日にJICA中国に参加者33名が集い、第1回国際理解教育研修会が開催されました。小学校コースでは、臼井香里先生、中・高等学校コースでは、小野行雄先生を講師としてお招きし、フォトランゲージやお魚ゲームなどの参加型学習を体験しました。参加者は、国際理解教育の視点が多様であること、子供たちの理解段階に応じた取り組みの重要性などを感じ取っていました。本研修会には、今年度の教師海外研修(ケニア及びガーナ)を受ける16名の方々も参加しており、第2回(2005年10月)、第3回(2006年1月)の研修会で海外研修後の教育実践の成果を発表することになっています。



・「平成17年度JICA 中国開発教育支援事業のご案内」の発送

開発教育支援の各事業の募集要項については、昨年度までは、その都度、学校宛に郵送していましたが、今年度からは、それらを1冊にまとめ、年度当初に送付することになりました。これは、学校現場にJICA開発教育支援事業を年間を通じて計画的に利用してもらいたいとのねらいによるものです。今回の送付については、各県の教育委員会からのご協力をいただき、推薦文をいただいたり、官庁便を利用するなど、これまで以上に教育行政とのパートナーシップを重視した形で実施しました。各県教育センターでの開発教育の講座をJICA中国が担当する取り組みも始めました。今後とも、教育行政機関から頼られるJICA中国を目指します。



JICA主催 / 共催 イベント & 募集情報

全国 第26回国際協力フォトコンテスト募集

応募テーマ
国際協力:日本人と開発途上国の人々との技術協力や交流の現場を撮影した写真。

一般:開発途上国の自然や文化の中で生きる人々などを撮影した写真。

募集期間:平成17年7月1日(金)～9月15日(木)必着
詳しくはこちらをご覧ください。

<http://www.jica.go.jp/classroom/photocon/index.html>

全国 国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト2005作品募集

募集テーマ:「発展途上国や国際協力について考えていること」

たとえば、「平和」、「私たちの未来と地球」、「青年海外協力隊になったら」、「発展途上国の人々とのふれあい」、「ボランティア活動を経験して」など、タイトルは自由。自分の体験、本やテレビを通じて感じたことを書くエッセイも可とします。

募集期間:平成17年6月1日(水)～平成17年9月22日(木)
<お申込・お問い合わせ>

社団法人 青年海外協力協会(JOCA)

「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2005」係宛

住所:〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24

TEL:03-3406-9151 FAX:03-3406-9160

詳しくはこちらをご覧ください。

http://www.jica.go.jp/classroom/essay_boshu.html

広島 ピース・トーク・マラソン 2003-2007 in 広島

～1人ひとりにできること。1人のためにできること。～

日時:平成17年7月9日(土)

開場12:30 開演13:00 終演16:00

場 所:広島YMCA国際文化ホール

ゲスト:穴戸開(俳優)・田中章義(歌人)

定 員:250名

入 場 料:無料

詳しくはこちらをご覧ください。

<http://www.jica.go.jp/branch/cic/tpl/event.html>

広島 高校生国際協力体験プログラム

このプログラムは、高校生を対象に、開発途上国のおかれている状況や、日本の国際協力について理解を深めてもらう事を目的として、2泊3日の合宿形式で実施するものです。

日 時:平成17年8月18日(木)～20日(土)

場 所:JICA中国

申込締切:平成17年7月1日(金)

<お申込・お問い合わせ>

社団法人 青年海外協力協会(JOCA) 中国支部

TEL:082-511-3340 FAX:082-511-3342

E-Mail:chugoku-br@joca.or.jp

広島 国際理解教育研修会

第2回 入門編

～作ってみよう!国際理解教育の授業プラン～

日 時:平成17年10月1日(土)～2日(日)の1泊2日

1日目 13:00～18:00

2日目 9:00～15:30

場 所:JICA中国

定 員:45名

申込締切:平成17年9月5日(月)

3回目 中級編

～聞いてみよう!学校現場での様々な取り組み～

日 時:平成17年1月28日(土) 12:30～16:30

場 所:JICA中国

定 員:45名

申込締切:平成17年12月12日(月)

<お申込・お問い合わせ>

社団法人 青年海外協力協会(JOCA)中国支部

TEL:082-511-3340 FAX:082-511-3342

E-Mail:chugoku-br@joca.or.jp

鳥根県 「地球ステージ」参加募集

精神科医で国内外ボランティア活動を実践している講師による、コンサートステージ「地球のステージ」を開催し、大人から子供まで幅広く国際理解・国際援助についての関心を高めます。

日 時:平成17年8月27日(土)

場 所:鳥根県立大学コンベンションセンター

参加費:1,000円

<お申込・お問い合わせ>

(財)しまね国際センター内 JICAデスク

TEL:0852-31-5056 FAX:0852-31-5055

E-mail:jicadpd-desk-shimaneken@jica.go.jp

JICA中国での研修員消防・避難訓練

6月25日(土)朝9時、38名のJICA研修員が参加。

東広島市消防署から「大変よかった」と講評。



JICA ボランティア派遣人数 (現在派遣中)



2005年5月31日現在 (JICA 中国作成)

県名	青年海外協力隊	シニア海外ボランティア	日系社会青年ボランティア	日系社会シニアボランティア	合計
鳥取県	10	1	0	0	11
鳥根県	18	1	2	0	21
岡山県	36	8	1	0	45
広島県	54	6	0	2	62
山口県	32	6	0	0	38

お問い合わせ

JICA中国 独立行政法人国際協力機構 中国国際センター

〒739-0046 広島県東広島市鏡山3-3-1 ひろしま国際プラザ内(総務チーム)

TEL:082-421-6300 FAX:082-420-8082

E-mail:jicacic@jica.go.jp

URL:<http://www.jica.go.jp/branch/cic/index.html>

